

## 「西安交通大学サマースクール参加報告書」

京都大学法学部 2 回 庄田 康一

①派遣前と派遣後では主に、中国に対するイメージと自分の性格が大きく変化した。

派遣前には、中国に対して、日本のマスコミが報道するような反日であるというイメージや、大気汚染のイメージなど、正直あまり良い印象は持っていなかった。しかし、実際に中国を訪れたことで、中国は確かに驚く程空気が汚いことなど、日本で報道されているマイナス面も目の当たりにしたが、他方で中国にも日本のことを好きな人がいること、お店で値切ったりできるなど人と人とのつながりが残っていることなど、中国のプラス面も多く感じる事ができ、以前ほど中国に対して悪いイメージを持たなくなった。

また、自分の性格に関して、比較的内向的な性格から積極的に周り人とコミュニケーションを取ろうとする性格に変化した。その主な理由は二つある。一つ目は、中国で私たちを案内してくれた日本語課の大学院生とコミュニケーションをとりたいと思い、積極的に話しかけていったことで、他人と話す事への抵抗感がなくなったから、である。二つ目は、一緒に行った他のメンバーが面白い人たちばかりで、他人とのコミュニケーションの取り方もうまく、あのような人間になりたいと感じ、そのために積極的に他人と会話していこう、と思ったからである。

②中国では客人が来た時には余程の多くの食べ物を出す文化であるので、毎回の食事で食べ残しが出た。ある店で、その食べ残しがゴミとして処理されることを目の当たりにした時には、文化の違いで仕方がないとはいえ、いたたまれない気持ちになり、改めて食べ物が普通に食べられる、ということに感謝の気持ちを感じた。

③座学で中国や西安の文化を学び、太極拳や書道の実習、実際に兵馬俑や長恨歌の劇を鑑賞するなどして、中国や西安の文化に対する理解を深めた。兵馬俑や長恨歌の劇の鑑賞、餃子宴を食べる前に座学でその歴史や見所などを教わっていたので、単に漫然と観光するのではなく、学んだところを実際に確認するといった、有意義な実地研修になったと思う。

一番思い出深いのは、漢詩の授業である。漢詩を漢語で発音する、というテーマで、高校の漢文で習った漢詩が数多く出てきて、それらを漢語で発音した。偶数句末が韻を踏むことや、5音あるいは7音がひとまとまりだということは習っていたが、2音1節で最後に休音があることなど、日本では習わなかった漢詩の音に関するルールを学び、芸術品としての詩、漢詩がより厳密なルールで成り立っていたのだと感動した。

④今回のプログラムに参加したことで、中国の良い面を多く知れたと思う。そして、悪い面に関しても、私たちに講義をしてくださった先生によれば、政府が改善しようと様々なキャンペーンを行っているということで、将来的には改善されていくのではないかと感じた。また、食べ物に関しても、初めのうちこそ口に合わなかったりしたが、徐々に慣れていった。私は、将来、海外で活躍する仕事をしたいと考えているが、そのメインの場所として中国も良いなと考えるようになった。